

# 鳥取西道路の遺跡を掘る!

第46号 2013年2月22日

遺跡から発見される出土品には使用した「痕跡」を良く残すものがあります。  
今回は土器に残された生活の「痕跡」についてお話しします。



## 小さな土器の破片から・・・

右の写真は縄文時代の人々が煮炊きに使用していた深鉢の破片です。昨年12月に良田中道遺跡から出土しました。なんの装飾も持たない小さな土器片ですが、内側には黒いものが厚く付着しています。実はこれ、約3000～4000年前の「おこげ」です。他の土器には吹きこぼれの痕も残っていました。



土器の内側にべったりとおこげが付着しています。



こちらの土器は、口の外側の方におこげが付着しています。



孔は内・外両側からあけられています。

左の写真も同じく深鉢の破片です。この土器にはよく見ると直径5mmほどの小さな孔があいています。これはひびが入ったりして壊れた部分を補修するための孔と思われます。残念ながらこの部分しか見つかっていませんが、片割れにも同じような孔があいていて紐などで結びとめていたのでしょう。当時の人々が大切に土器を使っていたことが分かります。



(財) 鳥取県教育文化財団  
調査室  
美和調査事務所  
〒680-1133  
鳥取市源太 12 番地  
(旧鳥取湖陵高校美和分校内)  
TEL : 0857-51-7553  
FAX : 0857-51-7550  
メールアドレス :  
tottori-kyobun@kyobun.sakuratan.com

**発掘通信** 今年度調査を終えたばかりの出土品の展示を行います

①期日：3月12日(火)～18日(月) 場所：県民ふれあい会館  
※3月16日(土)午後2時から調査成果の報告会も同会場で行います。

また、良田平田遺跡出土木簡等の展示も行います。

②期日：3月6日(水)～4月7日(日) 場所：鳥取県立博物館  
是非ご観覧ください。

鳥取県教育文化財団 調査室

# 良田地区

## 古代の木簡を解読！

### 良田平田遺跡

よしだひらたいせき

### 7世紀末の公文書 (文書木簡) を発見



昨年<sup>もんじよもっかん</sup>の発掘調査で、古代のピット（穴）から細長い板の両面に文字が墨書きされた文書木簡が出土しました。肉眼ではすべての文字を判読することが難しく、赤外線カメラによって撮影、観察を行った結果、下の写真・図に示す文字が記されていたことがわかりました。

この文書木簡は「某（人名？）の御前に（謹みて）白す」の書式で書き出されています。この書式は、大宝令<sup>たいほうれい</sup>（701年制定）によって公文書の様式が整えられる前の7世紀末～8世紀初頭（飛鳥時代末頃）に多用され、口頭伝達を文書化したものといわれています。また「寵命」も「前白」の書式をとる木簡によく見える語で、“上級者の命令をお伺いして”程度の意味で用いられます。この木簡は下半部が欠けていますが、他の遺跡で出土した例からすれば、欠けた部分に要件や品目が記されていた可能性があります。

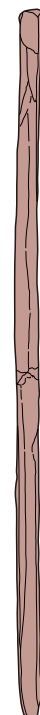
裏面には「使」に続き人物の姓名「孔王部直万呂」や「午時」（＝真昼どき）といった文字が見られます。「孔王部直万呂」が物品の受け取り等の要件に使われた人物で、「午時」は文書の発信時刻（“お昼頃”程度の意味か）でしょう。この木簡は、様式や内容からみて地方役所間でやりとりされた後、発出地に戻って廃棄されたと推測しています。

これまでの調査で平安時代前期（9世紀）には良田平田遺跡に田畠の経営を管理した役所関連施設が存在したことがわかっています。今年度の調査で、木簡以外に飛鳥時代末頃の掘立柱建物跡や硯も見つかっており、その頃から同様の施設が存在したと考えられます。

・ 使  
孔王部  
直万呂  
午時



・ □ □ □ □ □  
御前  
〔謹〕  
白  
寵  
命  
□



▲赤外線写真

残存長 18.7 cm（下端部欠損）× 幅 2.5 cm × 厚さ 0.5 cm



▲実測図

### 出土した木簡（前白木簡）